

パネルディスカッション 2021年8月27日 08:00-09:30 Room1

CEFR 準拠 OJAE 「ワークショップ」

一言語能力測定からコミュニケーション力観察へ

Kôji HAGIHARA (名城大学)

Michiko TAKAGI (ブラッセル日本人学校補習授業校)

Yasuko SAKAI (ライプツィヒ大学)

Rie OGUMA (ゲント大学, お茶の水大学)

Fumi OMURO (佐賀県国際交流協会)

Yoriko YAMADA-BOCHYNEK (ヨーロッパ日本語教育学研究所)

Yumiko UMETSU (ベルリン日独センター)

Aya MARIKO (ヴェネツィア「カ・フォスカリ」大学)

グローバル社会に於ける世界平和を実現・維持するべく、真の「対話」ができる人間を育成する外国語教育がこれ程希求されている時代はかつて無かったと言えよう。「対話」を可能とするものは、言語を使用したコミュニケーションであることに疑念は無いであろう。しかし、「コミュニケーション・アプローチ」が提唱されて半世紀となる現在でも、日本語教育の現場では、コミュニケーションとそれを実現する力の捉え方及び育成のための実践について絶間無い議論が続いている。

こうした時代の要請に応え、OJAE 研究チームは、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) が提唱する複言語・複文化主義を基盤とし、日本語口頭産出能力を客観的且つ公平に測り、受験者・授業者の協働で育くみ、更に自己啓発へと導くアセスメント (査定) 法として OJAE (Oral Japanese Assessment Europe) (呼称「オジャエ」) を開発し、普及に努めてきた。

OJAE は、基本的には日本語口頭産出能力テスト法・評価法であるが、課題を共有する受験者 2 名が協働して展開する「やり取り (=対話)」を通して発揮したコミュニケーション力を観察することが可能であり、それをフィードバックすることで、学習者に日本語習得を超えた自己啓発の道を拓くものとなっている。また、試験者自身も OJAE 実践により、日本語指導を超えたコミュニケーション力観察・育成のための視座・指標・言語を獲得できるものである。

本パネル発表は、OJAE 研究チームによる OJAE 実践の実例に基づき、参加者が活動する「ワークショップ」として構成されており、実践してこそ真価を発揮する OJAE の全貌を疑似体験してもらい、生涯教育の一環としてコミュニケーション力の観察・育成を提唱するものである。

CEFR 準拠 OJAE 「ワークショップ」

一言語能力測定からコミュニケーション力観察へ

Yoriko YAMADA-BOCHYNEK (ヨーロッパ日本語教育学研究所)

Yumiko UMETSU (ベルリン日独センター)

Fumi OMURO (佐賀県国際交流協会)

Yasuko SAKAI (ライブツィヒ大学)

Michiko TAKAGI (ブラッセル日本人学校補習授業校)

Aya MARIKO (ヴェネツィア「カ・フォスカリ」大学)

パネル発表プログラム

導入：OJAE 実践研究と私（10分）

自己紹介を兼ねて、OJAE 研究チームメンバーが一人ずつ、「私にとって OJAE とは」を念頭に、本研究に参画した動機を語る。それによって OJAE の魅力が提示できるものとする。

第1部：OJAE-B2 ビデオ視聴とアセスメント実践（35分）

先ずフィードバック（FB）用紙を配布し、使い方を説明する。その後、OJAE-B2 ビデオを視聴しつつ参加者各自が持つ CEFR 基準で能力項目別のアセスメントを実践してもらう。FB 用紙中、特に説明が必要な「全体コメント」の欄に関しては、第2部で説明する。参加者をサンプルとした実験ではないので、FB 用紙は回収しない。

第2部：OJAE 研究チームのアセスメント結果を呈示（20分）

キャリブレーション・セッション（標準化会議）を追体験し、各自 FB 用紙に記載した評価結果を見直して、自身の評価観点や評価基準を内省する機会とする。

CEFR 準拠 OJAE 「ワークショップ」

一言語能力測定からコミュニケーション力観察へ

Kôji HAGIHARA (名城大学)

第3部：FB 用紙「全体コメント」について（10分）

FB 用紙「全体コメント」欄について、どのような観点でどのように分析、記述するかを呈示する。FB 用紙中、「5 領域（正確さ、使用幅、交話力、流暢性、結束性）」評価が謂わば「受験者の口頭産出能力試験結果」となり、「全体コメント」が両者臨場姿勢としての「コミュニケーションの場」の分析・記述となる。OJAE はコミュニケーション（対話）力を育成するものであり、「対話」の臨場姿勢・実践模様を通して受験者・授業者並びに日本語教育機関は日本語使用者の状況把握、今後の指針が得られるのである。

結語：質疑応答と告知

2020 年秋以降、企画実施予定の OJAE ワークショップ、2021 年以降のオンライン研修（A2 を焦点に）紹介（15分）